

## 平成 29 年第 193 回溶融塩委員会開催のお知らせ

2017 年 4 月 17 日

電気化学会溶融塩委員会 委員各位

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素より溶融塩委員会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度「第 193 回溶融塩委員会」を平成 29 年 6 月 29 日(木)に一般財団法人 電力中央研究所狛江地区(〒201-8511 東京都狛江市岩戸北 2-11-1)にて開催する運びとなりました。委員の皆様のご参加をお待ちしております。

なお準備の都合上、見学会、昼食の要・不要、(役員の方は役員会の出欠もご連絡ください) 委員会ならびに懇親会それぞれの出欠を明記の上、電子メール(メール返信先：[mscj@electrochem.jp](mailto:mscj@electrochem.jp))、または FAX(06-6339-4026)、葉書にて平成 29 年 6 月 22 日(木)までにご出欠のご連絡を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

敬具

プログラム

平成 29 年 6 月 29 日(木)

10:30 – 11:30 見学会

12:00 – 13:00 昼食、役員会 昼食費 1,000 円

13:00 – 13:50 委員会 (講演会)

13:50 – 14:40 委員会 (講演会)

14:40 – 15:00 休憩

15:00 – 15:50 委員会 (講演会)

15:50 – 16:40 委員会 (講演会)

17:30 – 19:30 懇親会 懇親会費 4,500 円

会場：土間土間 成城学園前店

(〒157-0066 世田谷区成城 6-14-3 成城建物 2F, TEL: 03-5429-1665)

\* 昼食費、懇親会費は当日現金でのお支払いをお願い致します。

\* 原則、会員の方のみご参加いただけます。

会場の詳細は以下の URL を参照願います

[会場] (一財)電力中央研究所 狛江地区

<http://criepi.denken.or.jp/intro/access/map.html#komae>

## 講演内容

13:00 – 13:50

**西田 憲二先生**（一般財団法人 電力中央研究所 材料科学研究所）

「アトムプローブを用いた原子力材料の脆化メカニズム研究」

電力中央研究所では、原子力材料の経年変化現象について、その基礎的なメカニズムの解明と経年変化の予測・評価法の開発研究を進めている。本講演では、軽水炉安全研究において活用しているアトムプローブトモグラフィー技術および関連技術と、それらの適用例について紹介する。

13:50 – 14:40

**深澤 哲生先生**（日立 GE ニュークリア・エナジー(株)）

「フッ化物揮発法を利用した再処理、デブリ処理技術」

フッ化物揮発法は、原子燃料サイクルのフロントエンドにおいてウラン(U)濃縮技術及びその前後の転換技術、再転換技術として工業的に利用されている。本講演では、使用済燃料や燃料デブリに含まれる主要な元素のフッ化反応性と反応生成フッ化物の揮発特性、先進的再処理技術及び燃料デブリ処理技術の概略フローと典型的試験結果を示す。

15:00 – 15:50

**片山 靖先生**（慶應義塾大学 理工学部）

「ルイス塩基性アミド系イオン液体中における金属電析」

溶融塩だけでなく、第四級アンモニウムイオンなどの有機カチオンからなり、比較的低い融点をもつイオン液体における金属の電析についての研究が進められている。本講演では、アミド系イオン液体にハロゲン化物イオンを加えたルイス塩基性アミド系イオン液体中における金属電析について検討した結果について述べる。

15:50 – 16:40

**鷹尾 康一郎先生**（東京工業大学 科学技術創生研究院）

「イオン液体中における錯体溶液化学と溶媒抽出への応用」

イオン液体中での錯体溶液化学は原子力分野における核種分離手法として一般的な溶媒抽出技術の基盤となるものである。本講演では、これまでに得られたイオン液体中での各  $M^{n+}$  のユニークな錯体化学・溶液化学的側面の概説と、さらにはイオン液体自体の合成法の開発についても紹介する。



「土間土間」成城学園前店  
(東京都世田谷区成城 6-14-3 成城建



公益社団法人電気化学会 溶融塩委員会  
委員長 竹中 俊英・事務局長 森重 大樹